

■ 第3回東海障害者臨床研修会学術大会レポート ■

広報委員会委員東海地区担当 服部 清

7月10日、日曜日に「ウインクあいち」にて開催された第3回東海障害者臨床研修会学術大会は、愛知学院大歯学部小児歯科学講座主催、福田先生が大会長を務められました。

プログラムとして、午前中には、大会に先立ち東海障害者歯科臨床研究会・第2回認定医研修会として名古屋市歯科医療センターの伊藤先生を講師としてお招きし、「障害者歯科におけるモニタリング ―心電図の基礎―」と題してご講演を賜りました。

午後から学術大会が行なわれました。特別講演は、豊田市こども発達センターの若子理恵先生による「高機能自閉症の子どもたち ～歯科受診における理解とアプローチ」と東京都立口腔保健センターの石井里加子先生による「明日から活かす診療補助の基本と Tips (ちょっとしたコツ)」の2題でした。

若子先生は、発達障害についての説明、高機能自閉症は、特に精神機能の発達のでこぼこ(偏り)が、顕著でその支援方法として、視覚支援はもちろんのこと、言葉によるコミュニケーションの場合には、遠回りではなく、シンプルでストレートな表現で伝えることが重要であること、失敗の記憶に対しては、安心の記憶、成功体験をそれ以上に(ひとつの失敗に5つの成功体験)積み重ねて記憶を上塗りすることが大切であるなど、歯科診療をご理解いただいた上でのわかりやすくご説明いただきました(豊田市こども発達センターの歯科は、その施設内でもっともよい場所に配置されているようで、歯科と医科の連携がととてもとれているという印象を受けました)。

石井先生は、自らの経験や職場でのインシデントレポートの結果について、映像や、データを示し、わかりやすく提示され、ご自分の失敗経験や患者さんや家族との信頼関係の大切さも含めて、より具体的に明日から実践できる補助方法の理念、知識、技術についてご講演いただき、歯科衛生士だけでなく、歯科医師、その他のスタッフにとってもたいへん参考になる内容となっていました。私個人としては、最後の想いに共感させられました。

一般演題では、歯科医師4題、歯科衛生士4題の発表が行われ、盛会のうちに終了しました。尚、参加者は153名でした。また、大会終了後、近くの居酒屋で玄先生の教授就任のお祝いも行われました。特別講師の石井先生も残られ、とても和やかな雰囲気の中で終了しました。

大会長の福田先生からは、今後開催される予定の静岡県や三重県といった歯科大学のない地域のことに配慮いただき、できる限り少人数で運営できる体制で準備されたというお話しをうかがいました。地域の障害者歯科を推進する地方会の役割の重要性を感じることができました。

